

平成21年度購入文化財一覧

【東京国立博物館】(8件)

- 1 ○種 別
○名 称
○作 者 等
○時 代
○品 質
○寸 法 等
○作品概要

絵画
山水図屏風 (さんすいずびょうぶ)
呉春 (1752~1811) 筆
江戸時代・18世紀
紙本墨画淡彩
6曲1双 各 163.7×364.2cm
屏風装。

松の緑を残す秋の山間を農夫が歩む古村晩帰図を右隻に、冬枯れの滝の冷たく落ちる山間を高士が騎馬で進む寒山行旅図を左隻に描く。各隻の独立性が強く、左右入れ替えても不自然のない構成がとられている。呉春の師である与謝蕪村が好んだ紙本に蕪村の画風に習って描かれており、紙本の特性を生かした柔らかく澄んだ秋の光が画面にあふれる広やかな山水図となっている。蕪村に習いながら独自の画風を確立していこうとする池田時代の作品と考えられる。



○購入金額 96,000,000円

- 2 ○種 別
○名 称
○時 代
○品 質
○寸 法 等
○作品概要

絵画
男衾三郎絵詞断簡 (おぶすまさぶろうえことばだんかん)
鎌倉時代・13世紀
紙本着色
1幅 本紙 28.7×23.5cm
掛幅装。

男衾三郎絵詞は、鎌倉時代の関東武士、男衾次郎・三郎の兄弟の物語を描いた物語絵巻である。一巻の当館本は鎌倉時代13世紀に遡るやまと絵巻として貴重な作品で、重要文化財に指定されている。

本断簡はその連れで、昭和49年の当館の「絵巻」展において田中親美蔵として展示された以外、ほとんど知られることのなかった遺品である。兄次郎の死後、その妻と娘が三郎に引き取られるが、継子いじめにあうことが残された詞書中にあり、この部分の絵と考えられる。鎌倉武士の生活ぶりが描かれたものとしても著名な絵巻であり、これを補うものとしてきわめて貴重である。

○購入金額 30,000,000円



- 3 ○種 別
○名 称
○作 者 等
○時 代
○品 質
○寸 法 等
○作品概要

絵画
源氏物語絵合・胡蝶図屏風 (げんじものがたりえあわせこちょうずびょうぶ)
狩野晴川院養信筆
江戸時代・19世紀
紙本着色
6曲1双 各 158.0×354.0cm
屏風装。

左右各隻に『源氏物語』の一帖から一場面を選んで描いたもの。右隻は、「絵合」帖から、梅壺女御と弘徽殿女御が冷泉帝の御前で絵合を競う場面、左隻は、「胡蝶」帖から、秋好中宮(梅壺女御)の行なう春の仏事に、蝶の装束をした女童が紫の上の贈った閨加棚に供える花を持って来た場面が描かれている。落款の記載から、文政2年(1819)から天保5年(1834)の間に描かれたことが知られる。佐竹本「三十六歌仙絵巻」から小野小町や中務の姿型が利用されており、古画の模写に努めた養信のやまと絵学習の成果が結実した優れた作品である。

○購入金額 25,000,000円



- 4 ○種 別
○名 称
○時 代
○品 質
○寸 法 等
○作品概要

彫刻
十一面観音菩薩立像 (じゅういちめんかんのんぼさつりゅうざう)
平安時代・9世紀
木造
1軀 像高 110.2cm

頭上に十一面をいただく。左手に蓮華を挿した水瓶をとり、右手は垂下して掌を正面に向ける。腰をやや左方に捻り、蓮台上に立つ。頭体幹部は通して針葉樹の一枚(木心を右後方に込める)より彫出し、両肩以下、両足先等に別材を矧ぐ(別材部は後補)。素地仕上げ。

○購入金額 45,000,000円



- 5 ○種 別 金工
 ○名 称 自在伊勢海老 (じざいいせえび)
 ○作 者 等 明珍宗清作
 ○時 代 江戸時代・18~19世紀
 ○品 質 鉄製
 ○寸 法 等 1個 長 28.4cm
 ○作品概要 鉄製。



本物の伊勢海老のように自由自在に動かすことのできる置物で、触覚、腹節、胸脚、尾扇を動かすことが可能で、体全体と伸ばした状態から、触覚を後ろに曲げ、腹節を丸めた姿にすることができる。頭胸甲には全体にトゲを打ち出して表す。脚に「明珍」、「宗清」と銘を切り分けている。

○購入金額 3,150,000円

- 6 ○種 別 刀剣
 ○指 定 重要美術品
 ○名 称 短刀 (たんとう)
 ○作 者 等 越中則重
 ○時 代 鎌倉時代・14世紀
 ○品 質 鉄製
 ○寸 法 等 1口 刃長 25.2センチ 内反り
 ○作品概要 平造、三ツ棟、内反りの短刀。



鍛えは大板目肌に空目を交えて肌立ち、地沸厚くつき、地景太くあらわれ松皮肌となる。刃文は表はのたれに互の目交じり、裏は大のたれとなり、飛焼激しくついて皆焼風となり、沸厚くつき、砂流、金筋激しくかかる。帽子は、表直ぐに小丸、裏沸崩れる。茎は生ぶ、振袖形、先切、鑓目勝手下り、目釘孔4中2埋、佩表の目釘孔下中央に「則重」の銘がある。

○購入金額 25,000,000円 (6と7の合計額)

- 7 ○種 別 刀剣
 ○指 定 重要美術品
 ○名 称 薙刀 (なぎなた)
 ○作 者 等 長船元重
 ○時 代 南北朝時代・建武5年 (1338)
 ○品 質 鉄製
 ○寸 法 等 1口 刃長 46.7 cm 反り 2.1 cm
 ○作品概要 薙刀造、庵棟、鋒は張らず、反りの浅い薙刀。



鍛えは板目肌立ちところに、一部流れて柁がかり、乱映りが淡く立つ。刃文は中直刃、元の方に逆足入り、匂本位に小沸つき、匂口沈みごろとなる。帽子は直ぐに小丸に返る。彫物は表裏に薙刀樋に添樋を鍔下で丸止めにする。茎は生ぶ、先栗、鑓目筋違、目釘孔2、佩表の鍔下棟寄りに「備州長船住元重」、佩裏に「建武五年三月日」の銘がある。

○購入金額 25,000,000円 (6と7の合計額)

- 8 ○種 別 漆工
 ○名 称 蓬莱蒔絵香道具箱 (ほうらいまきえこうどうぐばこ)
 ○作 者 等 孫兵衛作
 ○時 代 江戸時代・17世紀
 ○品 質 木製漆塗
 ○寸 法 等 1具 縦 11.3cm 横 18.9cm 高 12.9cm
 ○作品概要 長方形、印籠蓋造の箱で、蓋の肩から四角にかけてを几帳面に仕立て、蓋と身の縁に玉縁を作る。内に香盆1枚、香炉1口、重香合2合、焚殻入の蓋1枚を収める。箱や内容品の表面は全体を梨子地として、



外側には高蒔絵・平蒔絵に切金・金貝・付描を交え、松・竹・梅・橘・椿が生い茂る水辺に鶴亀が遊ぶ、蓬莱の図柄を表わす。また所々に葵紋を散らしている。

○購入金額 5,000,000円